

令和4年度 全国学力学習状況調査 第6学年 考察

1. 国語について

本校の国語の知識・技能に関する調査結果は、正答率65%である。これは、神奈川県平均66.8%、全国平均70.5%、よりもやや下回っている。「我が国の言語文化に関する事項」については、平均値に近い。分からない言葉は辞書などで調べる、文章を書くときには、既習の漢字を使って書くことが習慣づき、言葉や言語の力が少しずつ定着してきていると考えられる。また、思考力・判断力・表現力に関する調査結果は、正答率56.9%、神奈川県平均63.3%、全国平均62%と、下回る結果である。特に、書くこと分野に課題がある。何を、どのように書くと自分の思いが読み手に伝わるのかを考える活動を丁寧に行っていくことで書く力を高めていきたい。

2. 算数について

本校の算数の知識・技能に関する調査結果は、正答率63.6%である。これは、神奈川県平均69%、全国平均68.2%をともに下回る。図形や変化と関係の領域については、平均値に近い。変化と関係については、割合の問題について、正しい答えを導き出せている。問題を繰り返し解くことで、定着につながったと考えられる。思考力・判断力・表現力に関する調査結果も、正答率53.8%で、神奈川県平均57.5%、全国平均56.7%を下回る。領域別にみると、データの活用に課題がある。社会科や理科の学習などでも、表やデータから必要な情報を読み取り、考察することをを行い、力をつけていきたい。

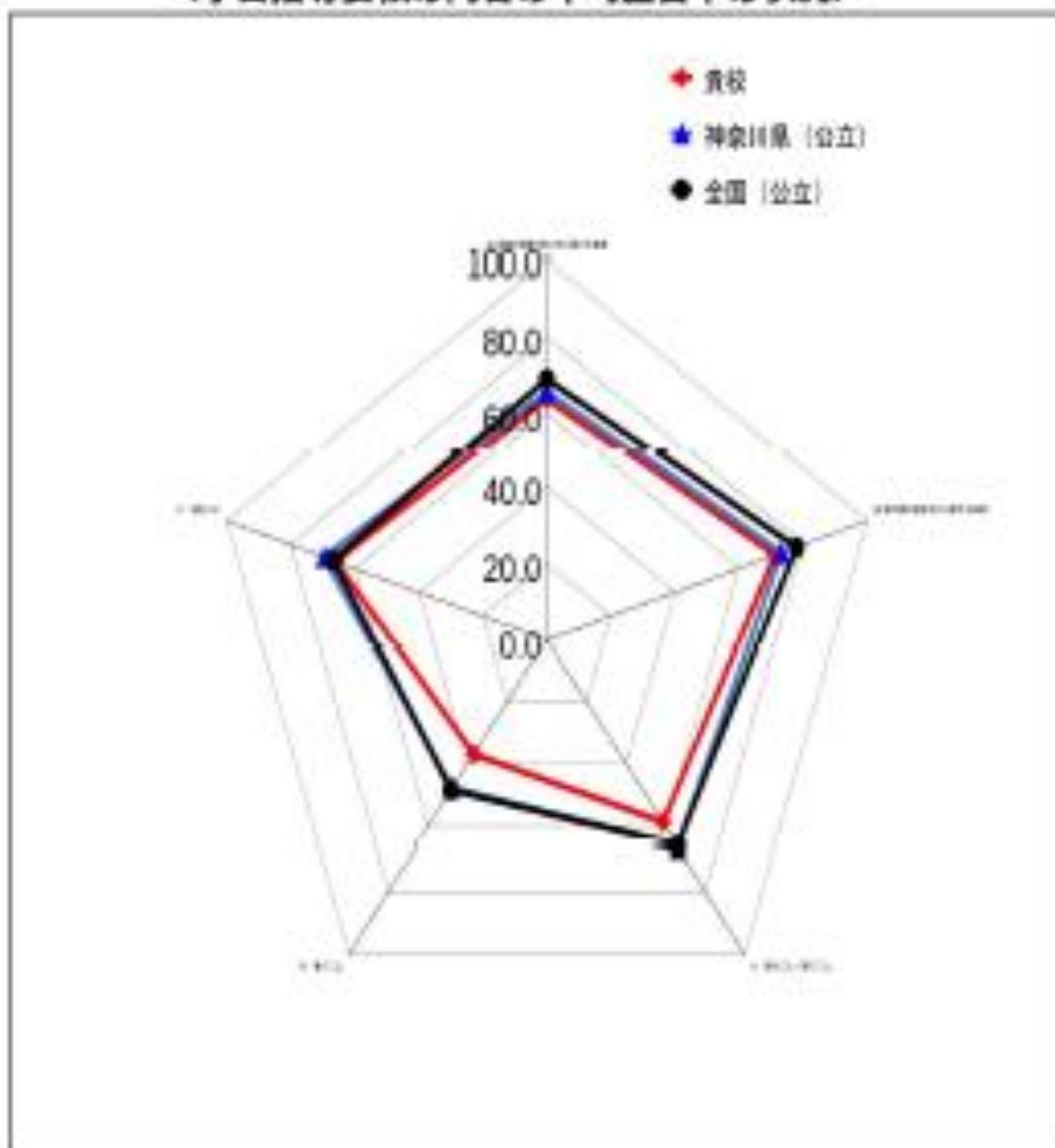
3. 理科について

本校の理科の知識・技能に関する調査結果は、正答率54.8%、これは、神奈川県平均61.8%、全国平均62.5%をともに下回る。また、思考力・判断力・表現力に関する調査結果も、正答率58.1%で、神奈川県平均64.2%、全国平均63.7%を下回る。「粒子」と「地球」の領域で、予想や結果をもとに考察する問題で努力が必要である。日頃の授業で、結果から考えたことを大切にさせ、まとめ方について指導をしていきたい。また、用具の名称や正しい使い方についても、実際に用具を扱うことで、理解を定着させていく。

4. 全体を通して

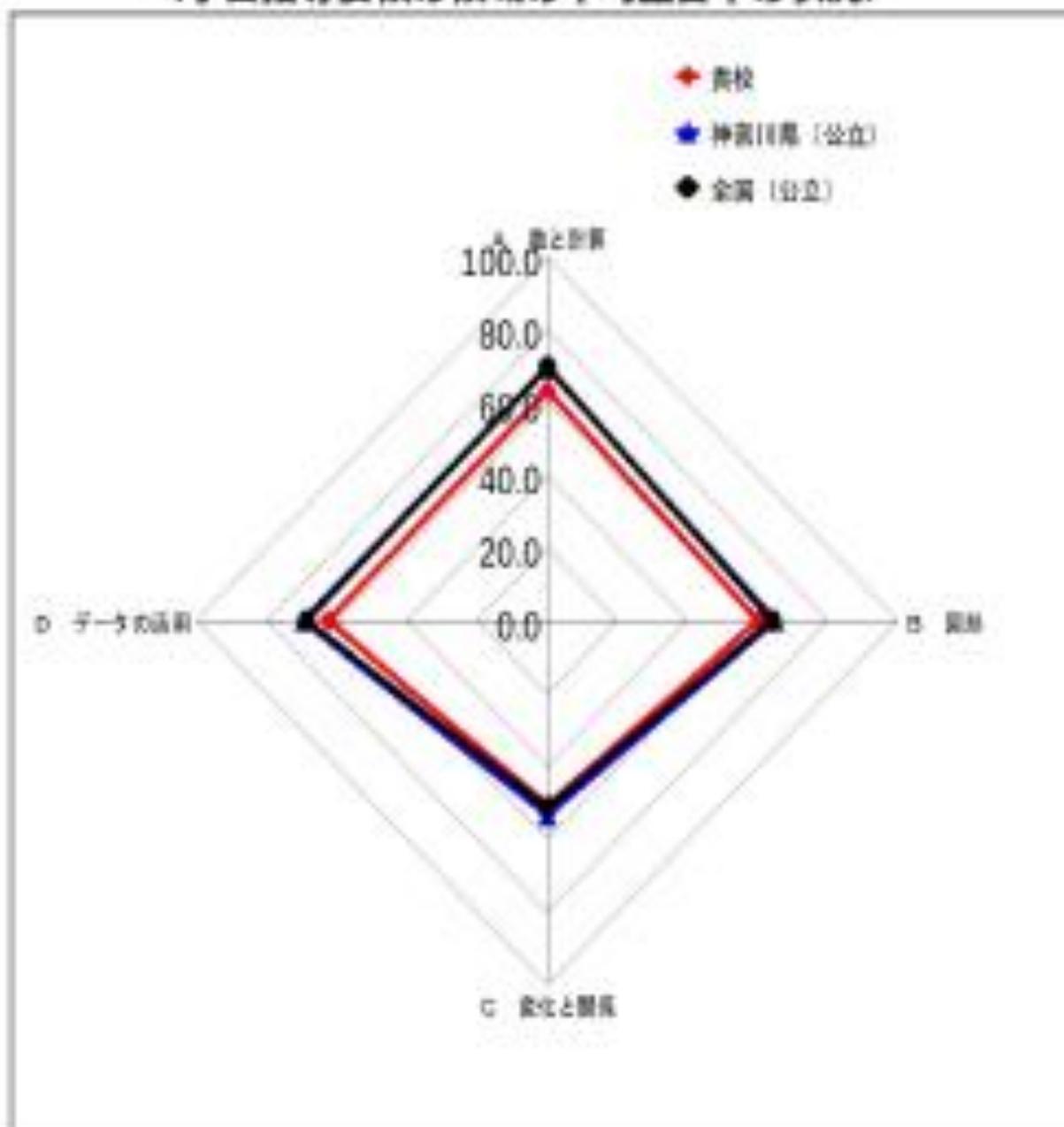
本校では、国語科を中心に研究に取り組んでいる。基礎・基本の定着を図る中で、児童が主体的に学習する授業を目指し、研究を進めている。算数では少人数学習を取り入れ、一人一人の課題を把握し、分かる・できる授業づくりに取り組んでいる。また、理科では、理科支援員に準備等を協力してもらい、実際に実験や観察を行い、学びを深められるようにしている。各教科、学習に対する関心や意欲を大切にしつつ、基礎的・基本的な学力の定着を図ることができるようになっている。全国学力・学習状況調査の結果を見ると、国語・算数ともに記述問題に対して課題がある。学習課題に対する自分の考えをもつことができるようにするために、ペア、グループ学習などを取り入れながら、考えを述べる機会を増やすなどの手立てを講じていく必要がある。また、あゆみや個人面談等を通して、児童の苦手分野を保護者と共有し、連携して、学力の定着を図れるようにする。

<学習指導要領の内容の平均正答率の状況>



算数

<学習指導要領の領域の平均正答率の状況>



理科

＜学習指導要領の領域の平均正答率の状況＞

